

令和6年度 第1回学校運営協議会 及び 第1回コンプライアンス委員会

記録 教務課長

1 日時 令和6年6月5日（火）10:00～12:00

2 会場 本校校長室

3 参加者

(1) 学校運営協議会委員

弁護士法人 ましろ総合法律事務所 代表弁護士

静岡市障害者協会 静岡市障害者相談支援推進センター 事務局長

麻機学区自治会連合会 防災委員長

本校PTA会長

(2) 本校職員

校長、副校長、教頭、事務長、部主事（小・中・高）、教務課長

4 会議次第

(1)開会

(2)校内案内

(3)協議

(4)第1回コンプライアンス委員会

(5)閉会

5 会議内容

(1)開会

ア 校長挨拶

- ・4月に本校に赴任した。20年ほど前に10年間本校に勤務、その後、当時の清水分校に勤務していた。愛着のある学校、また、開校以来満50歳を迎えた本校に務めることができ、喜びを感じている。
- ・令和8年度に、現在の静岡視覚特別支援学校の敷地に高等部の新しい学校が開校する。この学校は、本校の狭隘化解消のための一つの方策である。また、本校のもう一つの課題は老朽化。この後の校内参観では、狭隘化や老朽化についても見ていただきたい。
- ・本校の改築についても、今後進めていく流れ。
- ・お忙しいところ、御出席ありがとうございます。皆様の御支援を賜りたい。よろしく願いします。

イ 自己紹介

ウ 日程説明

(2)校内案内（教室、職員室）

(3) 協議

ア 本日の協議の趣旨説明

- ・本日の目的は2つ。今年度の学校経営計画を協議・承認いただくこと、学校運営について御意見をいただくこと。

イ 学校運営協議会について

(ア) 規則、要綱確認

(イ) 学校運営協議会のイメージ図の説明

- ・イメージ図は蓮の花のデザイン。学校運営協議会委員の皆様をはじめ、保護者や地域、関係機関の方のサポートを受けながら子供たちが成長していく姿を、麻機遊水地からたくさんの栄養をいただいて育つ蓮の花に重ねた。
- ・子供たちのために、学校の取組をより良くしていくためのサポートをいただきたい。

(ウ) 質問・意見

なし

(エ) 会長・副会長について

- ・野村様に会長を、上川様に副会長をお願いしている。御承知おきください。

ウ 令和6年度の学校運営方針について

(ア) 説明

- ・本校は開校が昭和49年。静岡北養護学校としてスタート、昭和54年に障害のある子供たちの学びが保証された。この地域の人々が「障害のある子供たちの学びを保証したい。」「障害のある子供たちの力を発揮させたい。」という思いがあったからこそ、本校は誕生。この義務化の時に、東遠分教室、駿遠分教室ができた。安倍分教室、また、清水分校、そして駿河総合高等学校内に南の丘分校ができ、やがて本校と南の丘分校という形になった。令和6年4月1日に満50歳を迎え、令和7年2月1日に記念式典を行う。
- ・開校以来、大切にしてきた合言葉「みんなと仲良く明るく元気にせいっぱいがんばるひと」は、学校教育目標でもあった。障害のある子供たちの可能性を広げ、仲間と共に生活してほしいという願いがあった。令和3年度から、学校教育目標が『「夢中」と「笑顔」で共生社会を生きる人』に。今の時代に沿った学校教育目標に変更。
- ・特別支援学校の特色ある教育課程、教科等を合わせた指導がある。日常生活の指導は小学部を中心に、学年が上がるにつれ、その指導時間が短くなる。遊びの指導は、小学部の低学年で行われている。見てわかる活動設定がある。その中で仲間と遊ぶ力、遊びを通してルールを学んでいく。また、仲間と共に一つの目的に向かって、活動を展開していく生活単元学習がある。中学部になると、作業学習がある。誰かのために役に立つ、自己肯定感や自己有用感を育てる。高等部では、作業学習が中心に。社会に出たときに結びつく力を育てる。見渡すと、キャリア教育である。教科を横断しながら学ぶことで教育的効果を上げている。
- ・本校の特色ある取組である「麻活」は、地域を教室に活動している。
- ・本年度の取組は教育目標に向けて、専門性、安全・安心、連携の3つの柱に沿って取り組む。
- ・本年度の重点、専門性は『児童生徒の理解に基づく「夢中」と「笑顔」の授業づくり』。ICTについては、端末等を上手に活用した授業づくりを推進していきたい。また教員同士が、それぞれの経験や様々な技を伝え合う静北版OJTも生かして、児童生徒の「できた。」「またやりたい。」という思いを引き出す授業づくりを展開していく。
- ・重点、安全・安心は『未然防止への行動力と有事への対応力の向上』。ヒヤリハットの情

報共有や有事の際の自分の動きを具体的に想定できるようにする、学習中のけがや病気ゼロを目指し予防策に取り組んでいく。

- ・今年度から建替工事が始まるが、より良い学習環境を確保するために、工夫をしながら進めていきたい。また、予算がある中で、どのように環境設定していくかを協力して取り組んでいく。
- ・重点、連携は『豊かな地域資源への深い理解とそれを活かした実践、発信』。麻活をはじめ、様々な情報についてホームページを活用して広く多くの方に発信していきたい。
- ・50周年を踏まえ、静岡北特支未来づくり委員会を立ち上げた。記念式典に向けた準備を組織で進めている。PTAとも連携をしていく。児童生徒、保護者、教職員にとって思い出深い年として語り合えるようにしたい。

(イ)各学部の経営

- ・【小学部】学部目標は「みんなと元気に自分から取り組む児童」。体を動かし、実際に経験を積み重ねることで学んでいくことから、目標に「元気に」という文言を加えた。「身の回りのことが自分でできる児童」は、自分のことを自分でやるという気持ちづくりや、技能を身に付けることを大切にしている。小学部段階では、身の回りのことを自分でやるということに重点を置いている。「身の回りの人や物に興味を持ち、みんなと仲良くかかわる児童」は、集団生活の場である学校で、人と関わる力を伸ばし、将来社会に出て働く人になるための土台作りをしたいと考えている。
- ・【中学部】中学部は、小学部6年間で培ってきた「自分のことは自分でやる力」を大切にしながら、また、高等部や社会に出ることも視野に入れながら大きく成長する時期。学部目標を、「自ら考え、仲間と共に進んで活動する生徒」とした。学校教育目標に「共生社会を生きる人」という言葉があり、小学部段階で仲間と一緒に活動することや周りを見て行動するということも踏まえ、「仲間と共に」という文言を加えた。学部目標に立てるに当たり、生活リズムを整えたり、進んで挨拶や返事をしたりすること、自分で考え、選択し、決定することを大事にする。
- ・【高等部】高等部では、小・中学部での学びを生かし、いよいよ社会に出るところ。「地域で学び、働くことに喜びを持つ生徒」これを学部目標に、卒業後の夢を持ち、社会で頑張っていけるように取り組んでいる。「主体的に学び、社会参加や自立に必要な力を身に付けようとする生徒」は、生徒たちの「こうしたい。」「もっとこういうふうにしてみたい。」等の言葉を大切にしながら、教師が生徒に身に付けてほしい力を明確にして指導したい。また、ICTの教育効果をうまく活用し、生徒の主体性を高めたい。「自他を尊重しあう環境の維持向上」については、自己理解を深めていく中で、いじめ認識シートを活用して子供たちや教師が気付いたことを共有し、より良い関わりを深めていきたい。昨年度の卒業生32%が企業就労、それ以外の生徒は福祉の方に進んでいる。職場実習だけではなく、麻活等で地域の人たちとも関わり、働くことの喜びにつなげていきたい。

(ウ)質問・意見(・)とそれに対する回答(→)

- ・自分でできることが増えるというのはいいことだが、「手伝ってもらってもいい。」「困っていることがあったら言って良い。」ことを教えたり、SOSを自分で出せるように教えたりすることも、福祉の立場から言うのならば、必要なことだと思う。
- ・小学部の遊びの指導の遊び場に大きな滑り台などがあった。児童に合わせて手作りしていることを知り、驚いた。

→目的を明確に持ち、遊び場を設定することも大切にしている。

- ・高等部の職場実習先として、どのような所に行けるといい、どのような作業がいいか等

の話が聞きたい。

→今年度の高3の生徒は81人。それぞれ、特性や長所がある。始まりから終わりまでの流れが一定、1日の流れが決まっている…だと分かりやすい。もちろん臨機応変に行動することも大切だが、ベースとしてそのような配慮があるといい。

→いろいろな生徒がいるので一概に言えないが、製品の合格、そうでないもののラインが曖昧なものを苦手だ。何が良く、何が悪いのかがはっきりしているような仕事が向いている。

→就労支援の開拓員にも来ていただき、様々な職場を開拓中。

- ・先生方がとても元気に子供たちに対応してくださっているのが良い。子供たちが「学校の先生に会いたいから学校に行く。」と思ってくれるような雰囲気づくりをしてほしい。教育の質は、教師も保護者も精神面が安定していることが大切。子供たちのすべてを受け止めてくれるような安心感が大切。保護者には、この子供たちを笑顔で受け入れてくれる先生方に対して感謝をしようと呼び掛けた。

- ・作業学習で、先生が生徒と一緒に作業をしながらも、生徒の様子をきちんと把握して指導している様子がよかった。生徒たちを幅広く見ていて、すぐ声を掛け、対応できていた。

※学校経営計画について、学校運営協議会員の皆様の承認が得られた。

(4) 第1回コンプライアンス委員会

ア 不祥事根絶への取組計画

(ア) 各月の重点

- ・児童生徒が安全・安心に、また、教職員が働き甲斐を持って取り組めるような環境作りを大切に計画。不祥事の内容は様々だが、時期に合わせてテーマを設定。定期的にチェックシートやワークを活用、自分自身を振り返り、行動を見直す。
- ・日常的に不祥事の話題に触れることがあるが、それをもとに、自分事として振り返りができるようにしたい。教職員としての自覚に立ち返ることができるよう取り組む。
- ・それぞれの担当部署で動き、組織的に取り組んでいく。
- ・多忙感を感じない安心できる職場づくりのために、コミュニケーションを図り、人間関係を大切にしている。風通しの良い職場づくりを通し、教職員の健康づくりを推進することは、児童生徒へのより良い教育につながる。

(イ) 教職員心得

- ・静北教職員心得は、昨年度の学校運営協議会で御意見をいただき、内容を改良。教職員に周知。

イ 質問や意見（・）とそれに対する回答（→）

- ・カスタマーハラスメントは、今後、考えていかなければならない課題。福祉の現場においても事例がある。厚生労働省ではカスタマーハラスメントに関する指針を出している。
- ・保護者同士ならば話しやすいかもしれない。先生方だけで解決しようとせず、PTA役員にも声を掛けてほしい。協力できることがあるかもしれない。

→教職員が安心して働くことが児童生徒につながる。カスタマーハラスメントに関する情報も参考にさせていただきたい。

(5)閉会

- ・ 次回の学校運営協議会は11月5日。中央特別支援学校と合同で行う。御案内を送付予定。
- ・ 今日足をお運びいただき、また御意見をいただき、ありがとうございました。御意見を受け、改善できるものは改善していく。